



所長コメント

東京へ行くとき、私はいつも飛行機を利用します。ANAの始発7:30発便が早割で一番安いので、通常この便を使います。そうすると10:30の都内での会議や打合せに出席できます。さすがに片道4時間弱かかる新幹線では無理です。そのためには6:15には家を出なければいけません。朝4:00に起きる私は、朝早いのは全く苦にはなりません。広島空港が福岡までとは言いませんが、もっと広島市に近ければいいのですが、空港移転を決めた当時の地元の有力政治家が広島県東部出身者だったのが、一県一空港を広島県のへそ、ど真ん中に持ってきた原因だと言われています。ならば空港までのアクセスを高速道路一本ではなく、鉄道でつなぐとかすればいいのですが、ライバルのJRがこれをしていない。民間企業とはいえ、公共交通を担っているのだから、自社の利益を優先するのではなく、もっと県民の利便性を考えるべきだと思います。片や公共性が高いということで、敷地の固定資産税は大きく減免されている。もっと広島市民は声を上げるべきです。

たまに空気の澄んだ、晴天時に機内のパイロットやキャビンアテンダントのアナウンスで「今日は左手に富士山が見えます。」といひます。雲の中に気高く突き出た富士山は心を和ませます。着陸直前に房総半島を太平洋側から横切るときに眺めた富士山には、太陽光発電のずらりと並んだパネルが写っています。このアンバランスも今風の光景です。

社長の仕事 税理士 大場史郎

フォルクスワーゲン

フォルクスワーゲン（VW）がディーゼルエンジンの排ガス規制で検査時のみ排ガスを軽減させる違法プログラムを使った問題が、大きな話題になっている。

一説には2兆円を超える制裁金を科されるなど屋台骨を揺らすような損失を被ることがニュースに出ている。実はこの事実は社内では2011年の時点で分かっていたなど、根が深い。メイドインジャーマニーのブランドを大いに失墜させ、環境にやさしいとあって最近日本でも見直されてきつつあるディーゼルエンジンの評価を落とした。

国内でも、東芝が不正な会計処理を行い、長年利益を水増しにしていた。不正会計の責任を厳しく問われた歴代3人の社長が役員を退任した。

両事とも、伝統ある名門企業で、このようなことが起きるのか、驚きである。両社のコーポレートガバナンス（企業統治）は全く機能していないといえる。社内の利益至上主義が行き過ぎて、現場担当者が不正に手を染めたようである。長年同じ組織の中にとると、世間では非常識なことが、社内では当たり前とみなされることはよくある。経営責任者がどこまで認識していたのか、今後刑事事件にも発展するかもしれない。どちらにしても、ユーザーや株主からとんでもない額の損害賠償訴訟が起きるだろう。最近社外取締役を、ブレーキを掛ける役、法令違反をしていないかチェックする役として置くことが求められている。今後義務付けられるかもしれない。

我々中小企業でも、経営者が違法と知りながら取引を行ったり、従業員を不当に勤務させたり、解雇したりして、トラブルを起こすことは事欠かない。中小企業では社外取締役を置くような余裕はない、そういった行為を監督、チェックするのも我々の仕事かもしれない。